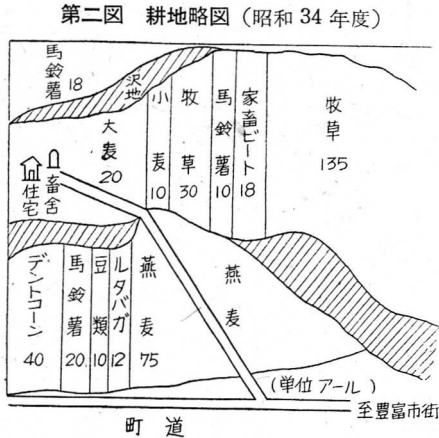
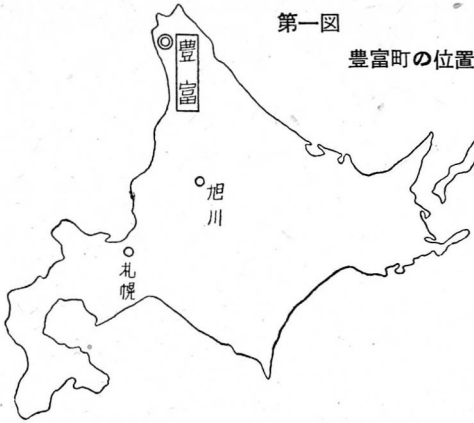


# 開拓営農七カ年の実績

天塩郡豊富町福永酪青研

組 沢 四 郎

この研究発表は昭和三十四年十二月、北日本酪農青年研究会において発表せられたもので、研究発表で第一位に入選、農林大臣賞、黒沢賞等を受賞されたものであります。自然条件のきわめて劣悪な中であつて理想を高く掲げ、着々その成果を挙げられた同氏の、御努力に深く敬意を表するとともに全国の皆様にこの概要を御知らせいたします。(編集部)



私は今から七年前の昭和二十八年、開拓者として全くの未開地であつた現在の土地に入植しました。最初部落の人々も、この土地では農業が成立たないといわれていただけに、重粘土の強い酸性土壌 (PH四) で、さらに高台地ではあるが重粘土のため排水もきわめて悪く、全面笹原で、白樺とハンノ木が若干生えているというような状態でした。気象的に恵まれない天塩地方に

あつて、さらに気候条件の良くないところで、霜は早い年は九月十日ころやつてまいりますし晩霜は六月十五日ころまで心配しなければならぬところがあります。

私は当時、『草を作つて牛を飼えば必ず成功できる』と決心して入地いたしました。当時は未開墾の土地六畝と四〇〇坪くらい離れたところに野草地五畝をもらひまして、それに本家より成牛一頭、耕馬一頭、鶏五羽、農機具としては一頭曳プラウ、方形ハロー各一台と簡単な住宅、掘立の畜舎を建ててもらつて始めたのであります。

最初の年である昭和二十八年、開墾のできた土地に主として馬鈴薯と燕麥を作りましたが馬鈴薯は一〇坪当り十五俵、燕麥は二俵程度の収量であつて、開拓初年度にして全く暗い気持ちになつてしまいました。しかしここでくじけてはいけなと思ひ

直して、まず第一に早急に土地生産力をあげる必要があると思ひまして、次のような経営の進め方を考えてみました。

### 経営の進め方

- 1 開墾のできた耕地には、必ず炭カルを重点的に導入する。
  - 2 開墾地は暗渠排水を実施する。
  - 3 荳科牧草を導入して乳牛飼料の確保と地力の増進をはかる。
- 以上のことを実行すること以外に道はないと信じ、荒地に取組み、努力を重ねて来た結果、現在は百姓一本で十分生活の出来得る確信をえた

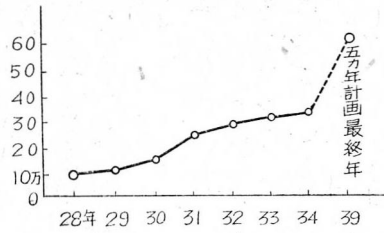
第一表 年次別経営状況

年次	区分		家畜					土地			施設	農機具	土地改良	
	稼働	非稼働	馬	成牛	育成牛	豚	鶏	耕地	開墾	採草地			暗渠	酸礫土正
28	2	—	1	1	—	—	5	ha 1.5	ha 1.5	ha 5	畜舎 15坪 住宅 15坪		a 50	a 30
29	2	1	1	1	1	—	15	2.0	0.5	5		デスクハロー	40	40
30	2	1	1	1	1	—	25	2.5	0.5	5	畜舎 5坪増設		40	40
31	2	2	1	2	1	—	35	3.0	0.5	5	鶏舎モルタル 10坪		40	40
32	2	2	1	2	1	—	50	3.5	0.5	5	レンガサイロ 9尺×18尺	発動機 4HP	40	40
33	2	3	1	3	1	—	50	4.0	0.5	5		レーキ 1/2 モーア 1/2	30	40
34	2	3	1	3	2	1	50	4.0	—	5	ブロック牛舎 30坪基礎・資材		30	80

第二表 収入の内訳

区分	農産	畜産	農外	計
年次	円	円	円	円
28	16,000	43,000	20,000	79,000
29	25,000	78,000	20,000	123,000
30	40,500	110,400	20,000	170,900
31	51,000	145,500	35,000	231,500
32	44,000	188,100	40,000	272,100
33	43,800	226,000	35,000	304,800
34	45,000	235,000	31,000	311,000

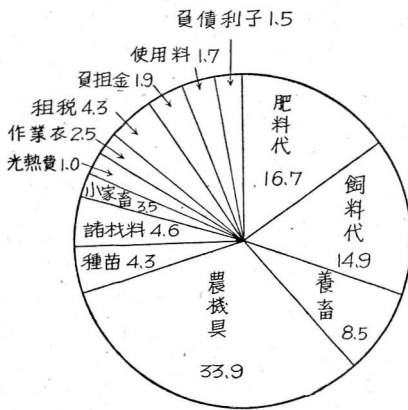
第三図 年次別収入の状況



第三表 経営改善五カ年計画

区分	家族		畜産					土地		施設	土地改良		
	稼働	非稼働	馬	成牛	育成牛	豚	鶏	耕地	採草地		暗渠	酸礫土正	心土耕
年次								ha	ha		a	a	a
35	2	3	1	4	2	2	50	4.0	5.0	ブロック牛舎 30坪完成	40	80	80
36	2	3	1	4	2	3	50	4.5	4.5	尿溜 100石入	40	80	80
37	2	3	1	5	2	3	100	5.0	4.0	堆肥場 20坪	40	80	80
38	2	3	1	5	2	5	100	5.5	3.5	鶏舎増築 10坪	40	80	80
39	2	3	1	5	2	5	100	6.0	3.0	住宅基礎のみ	40	80	80

第四図 経営支出の状況 (年33度)



私の経営はただほんの開拓途上にあつて、皆様のご参考にすることもななく、ただこのよう不利な立地条件のところであつても、耕地の根本的な改良を行い、良質の牧草と家畜用根菜類を十分に生

- 1 耕地の拡張、草地改良により採草地である五畝の中二畝を耕地化し耕地六畝にする。
- 2 乳牛五頭、育成牛二頭とする。
- 3 鶏一〇〇羽、豚年間延五頭を販売す。
- 4 ブロック建三十坪の牛舎を自己資金により来年度完成する。(本年度は基礎と資材の一部を購入している)
- 5 心土耕を年次計画で全耕地に実施す。
- 6 労力は作付の単純化(すなわち販売作物は中止する)と、農機具の導入により、(三十六年度自動耕耘機を導入予定)自家労力のみ(夫婦二人)でやる。

以上で私の発表を終りますが、今後同志の皆様ならびに先輩指導者の方々の一段のご指導をお願いする次第でございます。

のであります。(第一表以下それぞれの図表について細部説明)  
以上最初の考え方に従つて、ただ忠実に実行してまいつたところ本年度馬鈴薯の一〇ヶ当り収量は五五俵、燕麥では八俵、ルタバガは実に一〇・二〇〇ヶ畝という收穫をあげたのであります。

今年度幌延地方酪青研主催の根菜類多収穫共励会において、さいわい一等に入賞させていただいたような次第であります。この間夏は主として耕作と荒地開墾に、妻とともに全力を傾注し、土地改良のための暗渠排水の作業は冬季間一、五畝くらいの雪を除雪しながら全部自力で行いました。

今後五カ年計画の概要

産確保して乳牛を主体にしてやれば、必ずや楽しい農業経営を打ち立てることができるといふ確信をえたのであります。今後、さらに五カ年の計画をもつて、農業所得を現在の二倍にして行くため、実行可能なところで次のように進めて行くつもりであります。

特別にお奨めしたい

良書御案内

◇草地農学 (田垣住雄著)

農家も、農業指導者も、農政家も、おおよそ農業に関わりある人々の必読の書であり、日本の農業に大いなる希望をもたらし書であります。

A5判・七七〇頁、特上質紙使用、総クロス、豪華装幀、函入美装

頒価 送料共 千二百円

◇草地と酪農

(帯広畜大農博・大原久友編) 凡そ草地と酪農に関連する営農全般について各章ごとに織込んだ：多数の図表、図版、写真、最高最新の資料：  
市町村関係職員、農業改良普及員、関係教師及び学生、實際農家、農協役員、研究家諸氏必携の書

B5判・五〇〇頁、写真、図版約三五〇枚挿入総クロス金字入、函入り堅牢豪華本  
頒価 送料共 千円

新版案内

◇飼料作物と牧草のとり入れ方

(農林省編集農民叢書一〇七号) 三浦梧楼著  
日本の農業振興の為、牧草並びに飼料作物の栽培利用が必要であることは最近広く認識されて来たが、それでは「どんな所に、どのような飼料作物や牧草を、どのようにして作ればよいか」ということの理解は尚不十分であつて、本書はこのことについてわかり易く説述された。

これからの草作りの道しるべとしての良書であります。  
売価 送料共 六十円